

**学校法人北海道武蔵女子学園
北海道武蔵女子短期大学
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

北海道武蔵女子短期大学の概要

設置者	学校法人 北海道武蔵女子学園
理事長名	篠田 二郎
学長名	小林 好宏
A L O	向井 亮
開設年月日	昭和42年1月23日
所在地	北海道札幌市北区北22条西13丁目

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英文学科		120
教養学科		160
経済学科		70
	合計	350

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

北海道武蔵女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 7 月 25 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

短期大学の在り方が時代と地域性という難しい局面の中で問われる今、教職員が一体となり、よい人材を育てるために大いに努力されている。

教育課程は教育理念、目標に沿ったものとなっており、教養教育と専門教育のバランスがよくとられていて、多様な学生のニーズに応えたものといえる。

教員数は短期大学設置基準で定める専任教員数に達しており、教員組織は各学科の教育目標に基づいた教育課程に応じて適切に整備されている。

また、教育環境は、講義系教室、情報処理実習室、LL 教室、運動場、体育施設など、その授業内容や目的に応じて整備され、活用されている。図書館の教育環境も充実しており、図書館利用も活発である。

良好な単位取得状況および高い就職率から、教育目標は達成され、教育効果も充分なものであると判断する。

学生の態度は極めて礼儀正しく、来客者に対する挨拶も、全員がしっかりとできている。また、授業中の態度も良好である。

このことから「武蔵が大切にしたいこと」という教育目標が、実際に教育面でしっかりと実践され、実績もあげていると高く評価できる。

入学、学習、学生生活、進路に関し、学生支援体制が整備され、きめ細かな指導、支援が実施されている。

ボランティア活動など社会的活動が積極的に推進され、地域貢献に大いに取り組んでいる。また、社会人を対象とした公開講座を開講し、地域社会に向けて学習の機会を提供している。

学校法人としての管理運営体制、教授会、職員組織が全体としてよく整備されている。

財務状況は健全で、事業計画、予算などの作成プロセスも適切に行われている。

中・長期計画に関しても、委員会において短期大学の根本的諸問題について検討がなされ、問題点の認識が共有されている。

今後の情勢の変化に対しては、外部理事・監事の意見も参考に、さらに適切な対応が期待される場所である。

自己点検評価に関しては、積極的な取組みがみられる。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学校歌「ライラック賛歌」には、教育理念が北海道の自然の中に盛り込まれてうたわれている。また、教育理想のレリーフを、最も学生の集まる学生ホールに掲示することによって、建学の精神の浸透が図られている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学生に予算を与えて、書店に行って購入図書を選ばせる図書選書ツアーの実施により、学生の向学への動機づけが効果的に行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 仕事をする際に必要となる技能を習得させるため、生涯学習センターにおいて、検定試験対策講座を企画実施している。すべての講座（ワープロ・情報処理技能検定、秘書検定、英検、簿記検定）が受講料無料である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職対策総合講座（民間企業・金融関係対策講座、公務員対策講座、キャビンアテンダント・グランドスタッフ対策講座）が充実している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育の内容をより深めるために、授業担当者間での意思の疎通、協力・調整に努めることが望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教養学科の入学定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神は、学則第1条で「専門の学問研究を基底に、広く深い知識と教養を授け、かつ实际的に役立つ教育を施し、清楚にして典雅な情操の涵養に努めるとともに、学問に志し社会的国際的良識に長じ、平和と福祉の増進に役立つ人物を養成する」と明記され、3ヶ条の教育理想「真理を求めいつくしむ知性ある女性、愛に生き信念に生きる気品ある女性、人類文化の発展に尽す意欲ある女性」は、入学案内、学生便覧、キャンパスガイドなどで説明されている。

全学的教育目標は、五つの「武蔵が大切にしたいこと」（コミュニケーション能力、教養と読書、国際性、スキルアップ、職業・就職）として具体的に提示し、学科ごとに教養教育と職業教育の融合がバランスよく図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教養教育を「共通教養科目」として全学横断的に展開し、特にコミュニケーション能力の養成を重要視し、「基礎コミュニケーション系」の「基礎ゼミナール」と講義系科目との有機的な展開を図っている。英語関連科目について習熟度別授業を全学科にわたって導入している。

授業形態は講義、演習などがバランスよく配置されており、学生の多様なニーズに応えるものとなっている。

なお、教養学科の学生は「人間と文化」と「現代の社会」という学科科目の2分野のいずれかに重点に置いて履修することになっているが、その選択と「専門ゼミナール」の配属とが連動していないという問題がある。また、共通教養科目として、学芸・芸術系科目が手薄であり、他の教育機関との単位互換制度を視野に検討するなどの課題も残っている。

資格取得については、学科の卒業要件単位科目の教育課程の上に付加するかたちで図書館司書の付設課程や学芸員の特設講座などを置いて、多様な資格取得が可能となる教育課程となっている。

授業内容、教育方法に改善の努力がみられるが、「共通教養科目」や他学科が履修を指定する学科科目などに関して、授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を行うなどの改善の必要性が認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育の実施体制は、教員組織、教育環境、図書館などがよく整備されており、良好であると判断できる。

学生指導業務において、「日本一面倒見のよい大学」を標榜し、アドバイザー制、学生支援委員会、就職委員会、学生相談室、個人面談などを実施している。

図書館の活用について、資料選定に可能な限り学生の興味や関心を反映させるため、実際に学生が書店の店頭で好きな本を購入する「図書選書ツアー」の実施や「図書館情報探索講座」の開催など、きめ細かく教育が行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度と教育の効果は高いと判断できる。

単位認定の現状、授業についてのアンケート調査資料、退学・休学・留年などの状況、各種資格取得状況などから、教育の効果が良好であると判断される。「就職の武蔵」と地元から評価されるだけの内容となっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援においては、「入学案内」、受験生向けの情報提供の一つとして「武蔵情報ファイル」で「求める学生像」や「入学者選抜に関する基本的な考え方」を明確にし、多様な選抜方法により公平な入学者選抜が適切に行われている。入学後には充実したオリエンテーションや授業開講一週間後に行う新入生研修（1泊2日）できめ細かな説明が行われている。

学生支援では、入学時のみならず各学期開始時の履修指導には特に力を入れ、ゼミナール担当教員がアドバイザーとして入学から卒業までを通して、学習や進路、生活上の個人的な問題について、オフィスアワーなどを利用して対応をしている。

進路支援においてはゼミナール担当教員が、個別面談（年2回）、履歴書・小論文などの添削指導を行い、就職支援の全体指導を担当する就職委員会は、就職ガイダンス、企業セミナー、就職対策講座などを実施して成果をあげている。

評価領域Ⅵ 研究

研究活動状況は、「北海道武蔵女子短期大学紀要」に掲載され、あわせてウェブサイト上でも公表されている。その研究業績をみると教育改善のための実践報告や学生の生活や意識をめぐる研究など、教育効果や教育方法にかかわる研究あるいは調査報告が主となっている。

今後の研究活動強化については、学長が強い意欲を持って取組もうとされているので、それを期待したい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動については、当該短期大学のもっている人的、物的資源を活用して、生涯学習事業、審議会など自治体行政への参加・協力、社会人の受け入れ、リカレント教育の実施、施設設備およびマンパワーの提供、学生ボランティア活動など、幅広く推進されていると判断できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

全ての学内委員会は、教員と事務職員から構成され、意思疎通を図りながら協力して運営されている。なお、少子化、IT化などの環境変化に対応していくために、組織の改編と業務の再分担が課題であり、その整備を期待したい。

評価領域Ⅸ 財務

予算編成は寄附行為などの規定に基づき適切なプロセスで決定され、予算の執行も経理規程などに基づいて支出されている。

監事と公認会計士の連携は保たれ、監査内容についての話し合いがもたれている。また公認会計士の監査指摘事項については的確に対応している。

財務情報も、ウェブサイト上で公開するとともに、保護者会総会においても事業計画とともに予算の概要を配布し説明を行っている。

財務体質は、人件費比率の上昇傾向が認められるが、全体の収支バランスはほぼ保たれ健全である。

評価領域Ⅹ 改革・改善

「自己点検・評価に関する規程」を策定し、自己点検・評価委員会によって、隔年で点検評価を実施しており、実施体制が確立している。

自己点検・評価には積極的に取組んでおり、その結果について教育活動、学習支援の両面で改善につなげており、改革・改善のためのシステム構築への努力がみられる。

また、中・長期計画に関しても、委員会において短期大学の根本的諸問題について検討がなされ、問題点の認識が共有されている。